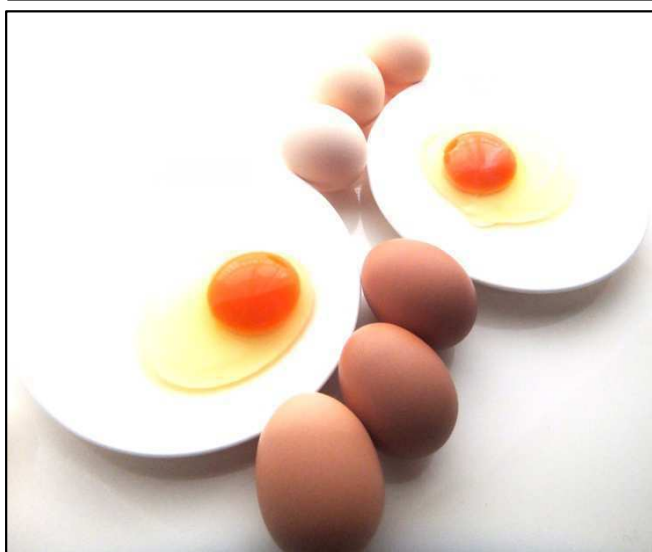


公益社団法人新潟県農林公社だより

アグフォレター



Vol. 2



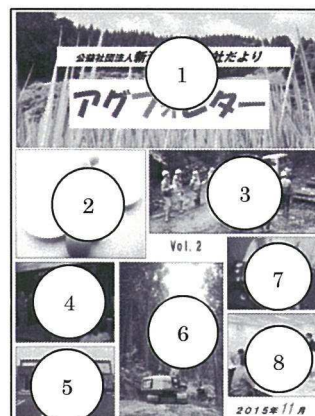
2015年11月

目 次

代表理事のあいさつ	P 2
新潟県グリーン・ツーリズム全体交流会 in 南魚沼 開催 (グリーン・ツーリズムセンター事業)	P 3
農地中間管理事業の取り組みが進んでいます (農地中間管理事業)	P 4
中条たまご直売店が好評です (6次産業化サポートセンター事業)	P 4
カーボン・オフセットの取り組みを広げています (カーボン・オフセット事業)	P 5
地域林業の取りまとめ役「森林施業プランナー」の育成 (林業労働力確保推進事業)	P 6
企画提案型利用間伐 ～スタートから終盤へ、さらに来年度に向けて～ (分収林整備事業)	P 7
特別企画：岡村代表理事、プリンを食べる。	P 8
農林コラム：よろっと☆のうりん	P 8

vol. 2 の表紙写真

- ①上越市三和区の田んぼと公社造林地
- ②中条たまごの卵
- ③森林施業プランナー研修の 1 コマ
- ④新潟県グリーン・ツーリズム全体交流会
in 南魚沼の 1 コマ
- ⑤中条たまご直売店の外観
- ⑥上越市三和区の公社造林地での施工風景
- ⑦にいがた GREEN フェスタ 2015 のブース展示
- ⑧森林施業プランナー研修の 1 コマ



代表理事のあいさつ



現場の声を大切に、

健全で迅速な事業運営をめざして

社員及び関係者の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、平成 27 年 6 月開催の定時社員総会で理事に選任をいただき、その後の理事会で代表理事のご承認をいただきました。「地域から頼りにされる公社、社会変化に的確に対応する公社」を念頭に、現場の声を大切にして健全で迅速な事業運営に努めてまいりますので、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

さて、先月には日本の農林業への影響が懸念される環太平洋経済連携協定(T P P)が大筋合意されるなど、農林業は大きな転機を迎えております。

このような中で、私も就任後は「現場主義」をモットーに、農業分野におきましては農地中間管理事業（農地集積バンク）の説明会や 6 次産業化の支援で、積極的に現場へ出向いて、取り組みを行なっております。

また、林業分野におきましては、低コストな間伐の推進と収入の確保に努めるべく、林業事業体・行政を交えて意見交換をしたり、各種イベントを実施したりするなど、事業展開を行なっております。

今後も、県民の皆様のニーズに応えるべく事業を実施していく所存でありますので、社員及び関係者の皆様からの更なるご指導とご支援をお願い申し上げてご挨拶いたします。

平成 27 年 11 月

公益社団法人新潟県農林公社
代 表 理 事 岡 村 均

「新潟県グリーン・ツーリズム全体交流会 in 南魚沼」開催

10月21～22日に南魚沼市を会場に開催した全体交流会は、昨年まで12回開催してきた「新潟県グリーン・ツーリズム大会」を小規模にし、大会開催地域の負担を軽減して行なわれる初めての会として行なわれました。グリーン・ツーリズムに関係する団体や個人など100名以上の方が参加し、新潟県内のグリーン・ツーリズムの交流拡大と更なる広がりを目指して、体験やワークショップ、情報交換交流会を行ないました。



笹団子作りや機織りなどを体験



夜は地酒や地元食材を使った料理を楽しみつつ、情報交換と交流を行ないました。

参加者からは、少人数でのワークショップだと発言もしやすく、みんな同じ事で悩みを抱えていたり、他でやっている解決方法などを聞くことができたりして良かった、という感想が聞かれました。他地域の実践者がお互いに顔を合わせる機会が少ないので、直に他の地域での取り組みなどを学ぶことができ、受け入れ家庭、農家民宿、体験指導者など、あらゆる立場からの話を聞くことができる貴重な会であると改めて感じさせられました。



★来年度は出雲崎町にて開催します。皆様のご参加をお待ちしております！

農地中間管理事業の取り組みが進んでいます

農地中間管理事業課では、今年度も広く県内に事業の制度や仕組み等を周知するため、各市町村等が主催する制度説明会への支援を行っています。今年度は2年目となることから、担い手農家への説明のほか、出し手農家への周知も進めており、今後も各種媒体を利用して、事業や制度の周知を図っていきます。



農家組合への説明会の様子

また、10月から稼働を始めた「農地中間管理事業支援システム」は、業務委託先の市町村が公社とともに契約情報を入力・管理し、情報の共有化と効率的な事務処理を図るために、開発したものです。

9月上旬に操作研修会を実施し、現在は準備が整った委託先から順次運用が始まっています。今年度から運用する市町村・団体は29（予定含む）となっており、平成28年度からは2市町村が運用を始め、ほかに2市町村が契約データを共有する事になっています。

今後も事務の効率化・簡素化に向けて改善を図っていく予定です。

6次産業化サポートセンター事業

中条たまご直売店が好評です

平成26年度に総合化事業計画の認定を受けた「有限会社中条たまご」が、今年6月に「たまごスイーツカフェ 中条たまご直売店」をオープンしました。自社配合飼料を給餌して生産した栄養強化卵や、それを使用したスイーツの販売に加え、店内にカフェスペースを設け、連日大勢のお客さんが足を運んでいます。

認定にあたり、サポートセンターでは6次産業化プランナーを派遣し、スイーツ開発や消費動向の実施調査等のサポートを行ないました。今後も引き続き要望に応じてフォローアップを行なっていきたいと考えております。



新鮮な卵や、それを使用したスイーツを購入できます。



カフェスペースでは、カフェ限定メニューも食べることができます。

カーボン・オフセットの取り組みを広げています

☆カーボン・オフセットフェスタ in ネスパス☆

9月18日～21日に、東京都渋谷区にある「表参道新潟館ネスパス」で、新潟県環境企画課が主催の「カーボン・オフセット」の取り組みを紹介するイベントが行なわれました。

イベントでは、緑豊かな新潟の自然に育まれたこだわりの商品を「カーボン・オフセット商品」として販売し、ご購入いただいた皆様の日常生活で排出するCO₂の一部をオフセットしました。



魚沼みなみ農協
のシイタケ

ネクストビジネス
システム（株）の
洗顔料



☆にいがた GREEN フェスタ 2015☆

10月18日に新潟市秋葉区にある「新潟県立植物園」で、公益財団法人新潟県都市緑花センターの主催で行なわれたイベントにブースを出展しました。このイベントは、緑花センター設立25周年記念事業として行なわれたもので、植物の大切さを思い返せるような催しが行なわれました。



新潟県農林公社のブースでは「環境教室」として、来場した親子にどんぐり細工やエコバックを作ってもらい、「トキの森クレジット」のPRに努めました。

地域林業の取りまとめ役「森林施業プランナー」の育成

数年前より、林業事業体は森林所有者に代わり、その地域の森林を一体的に管理することを求められています。一体的な森林整備を行なうには、森林所有者への説明・施業のプランニング・コスト分析・木材の売払い先への営業など、多様な能力が必要となります。これらの業務を行なう者を森林施業プランナーと言います。しかし、始めからこれらの業務を一人でこなすことは非常に困難です。そこで国では、体系付けてこれらの能力を習得・向上してもらうための研修制度の実施を推進しています。

新潟県林業労働力確保支援センターでは、研修の実施者として森林施業プランナー育成研修を実施しており、豊富な経験と最新の知識を有した講師による、座学と現地研修を交えた研修を毎年8～10月に実施しています。



実際に現地で、作業道のルートを考えます。

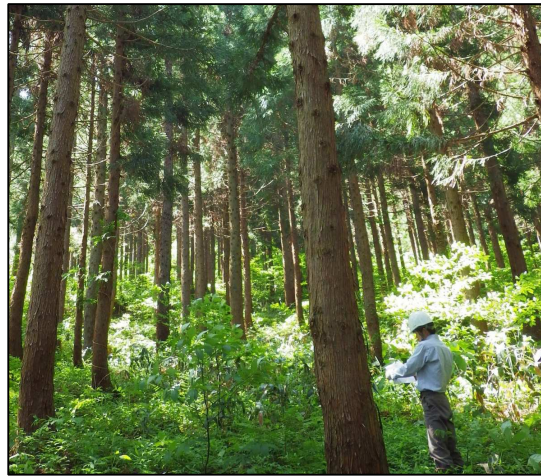
当公社では間伐材を利用するための事業を推進しており、実際に現場を管理している人達と同じ知識・目線に立つ必要性を感じたことから、本年度開催の研修には公社職員も参加しました。研修では、特に現地研修の作業道開設に関する考え方について、どのようなことを考えて道の計画を立てたら良いのか、講師はもちろん、普段現場に入っている他の受講生の意見も聞きながら現地を見ることが出来、大変勉強になりました。



グループに分かれ、問題点を洗い出し、解決方法を考えます。

企画提案型利用間伐 ～スタートから終盤へ、さらに来年度に向けて～

今年度も公社が推進している、林業事業体がプランニングした提案書を基に事業を実施する「企画提案型利用間伐」がスタートしています。5月に各林業事業体から提出された提案書には、各団地での適切な間伐と、収益を得るために考案されたプランが書かれています。公社職員は、提案内容の妥当性や実現性などを確認するため、公社内での検討はもちろん、提案者との話し合いや、現地での確認を行ない、提案内容の聞き取りと精査をします。提案内容に問題がなければ、いよいよ現場作業がスタートします。



提案者と提案内容を現地で確認



森林作業道と間伐中の造林地内

そして現在、現場作業も終盤に差し掛かり、計画通りに事業が実行できているか、提案者・公社職員ともにドキドキの時期でもあります。また、今年度の利用間伐の進行とともに、来年度の利用間伐実施地の選定や今年度挙げた課題について、公社内での打ち合わせや取り決めなど、来年度の利用間伐に向けて準備をしていく時期でもあります。

公社では、利用間伐の対象となる造林地が今後、続々と出てきます。間伐材を無駄なく利用できるように、各林業事業体とともに取り組んでいきます。



間伐した木を山土場に集めます

特別企画

岡村代表理事、プリンを食べる。

本誌 4 ページにて紹介した、「中条たまご」の直売店で購入することができるプリンを岡村代表理事に試食していただきました。さて、その感想は…。

◎太陽プリン

濃厚で美味しい！舌の上に乗った瞬間にふわっととろけて一口目で卵の存在を感じます。控えめなカラメルとも相性が良いですね。



◎Sweets プリン（柿）

さっぱりした柿のジュレと濃厚なプリンがマッチしていて、まるやかでとろける感じが素晴らしいですね。

なお、Sweets プリン（柿）を柿が苦手だという公社職員に食べてもらったところ、柿独特の渋みが無く、柿の美味しい部分だけを食べているようだ、とのことでした。

★★

農林コラム よろっと☆のうりん 今回のテーマは「産直販売所」

こちらのコーナーでは、日々の業務で感じたことなどを自由に書いていきます。

★★

公社の職員は業務の特性上、県内の様々な市町村へ行きます。特に、農村部や山間地などに行く事が多いのですが、そこで時々目にするのが野菜などの産直販売所です。

さて、この産直販売所ですが、写真のような小さなものから大規模なものまで、様々な形態のものがあります。これらの販売所では、新鮮な野菜や市場ではあまり流通していない地元野菜などを安く買うことができます。

小規模な販売所の多くは無人であり、一見すると通り過ぎてしまいそうなものがほとんどですが、見つけたときは「こんなところにあったか！！」という、宝物でも見つけたような気持ちになります。

また、大規模な販売所では、野菜以外にも加工品や工芸品など地域性のある商品売っており、色々巡ってみるのも楽しいのではないのでしょうか。



農村部で良く見掛ける無人販売所

☆新潟県農林公社ホームページのご案内☆



今年度より、新潟県農林公社の各種事業の紹介に加え、イベントや事業の開催などの情報をいち早く、一人でも多くの皆様にお伝えするために、ホームページをリニューアルいたしました。

↓ホームページのアドレスはこちら↓

URL:<http://www.niigata-nourin.jp/>

↑皆様、ぜひご覧ください↑

事業目的：新潟県農林業の振興

経営理念：未来志向による支援事業の推進

公益社団法人 新潟県農林公社

郵便番号：950-0965

住 所：新潟市中央区新光町15番地2

電 話：025-285-7711

F A X：025-285-5070